

令和3年度第2四半期までの運用状況等

(令和3年4月～令和3年9月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っています。令和3年度第2四半期までの運用状況を「独立行政法人農業者年金基金中期計画」に基づき公表いたします。

当基金が行っています年金資産の運用においては、確定拠出型の年金制度であることから、原則、資産を時価で評価しなければならないため、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績が変動しマイナスになることがあります。長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思いますので、皆様の御理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（平成30年3月27日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 運用の透明性の確保

年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、加入者に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の加入者に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 令和3年度第2四半期まで（令和3年4月～令和3年9月）の運用環境について	1
2. ベンチマーク・インデックスの推移	2
3. 令和3年度第2四半期まで（令和3年4月～令和3年9月）のポートフォリオ別の運用状況	3
（参考）用語の説明	5

1. 令和3年度第2四半期まで（令和3年4月～令和3年9月）の運用環境について

（第1四半期）

株式については、ワクチン接種進展等を受けた経済活動正常化への期待等を背景に、外国株式が上昇する一方、新型コロナウイルス感染拡大により東京都等に緊急事態宣言が発令されたこと等が重しとなり、国内株式は伸び悩みました。

債券については、米国において市場予測を下回る経済指標等を背景に量的金融緩和の早期縮小懸念が後退したこと等により、金利低下（債券価格は上昇）が進む一方、国内では長期金利がゼロ%近傍のため低下余地は限られました。

なお、為替については、米国のインフレ懸念後退によるリスク選好の動き等により、対ドルで円安が進行しました。

（7月）

株式については、東京都への4度目の緊急事態宣言が発令されるなど新型コロナウイルス感染拡大により国内株式が下落しました。海外では、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の中、FRB（連邦準備制度理事会）の金融緩和早期縮小懸念の後退を受け米長期金利が低下したことや、米国の良好な企業決算等が支えとなり、米国株式は上昇する一方、欧州主要国の株価は横ばいで推移しました。

債券については、FRB議長が金融緩和早期縮小に慎重な姿勢を維持したことや世界的な新型コロナウイルス感染拡大による景気減速懸念の高まり等から、国内外ともに金利低下（債券価格は上昇）が進みました。

なお、為替については、米国の長期金利低下による日米金利差縮小等により、対ドルで円高が進行しました。

（8月）

米国における量的金融緩和の早期縮小懸念や国内における新型コロナウイルス感染拡大への懸念等から、株価の下落や金利の低下（債券価格は上昇）が進む場面も見られたものの、米国において新型コロナワクチンが正式承認されたこと等を受け経済正常化が続くとの見方が広がったことや、パウエルFRB議長が利上げを急がない姿勢を示したこと等を背景に、月末にかけては、株式においては株価上昇圧力が、債券においては金利上昇（価格低下）圧力が働く環境にありました。

なお、為替については、米国におけるリスク選好の動き等により、対ドルで円安が進行しました。

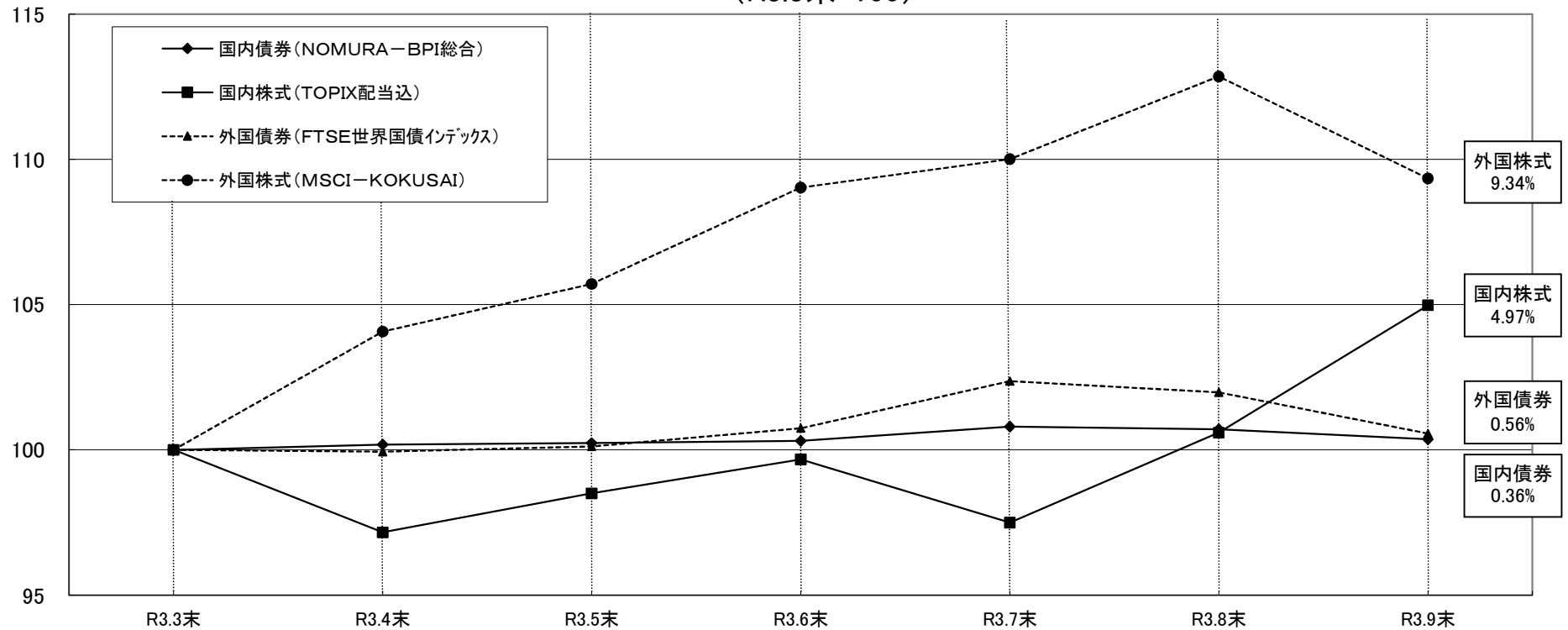
（9月）

月前半は、新型コロナウイルス感染拡大や市場予想を下回る雇用指標を背景とした米国の景気回復に対する不透明感等から、外国株式が下落する一方、菅総理の退陣表明を受けた次期政権の経済政策への期待等を背景に、国内株式は大幅に上昇しました。月後半は、中国不動産大手を巡る懸念や米国の与野党協議難航による連邦政府閉鎖等への警戒感等から、国内外ともに株価は下落しました。

債券については、FOMC（米連邦公開市場委員会）で年内の量的金融緩和の縮小開始が強く示唆されたこと等から、金利上昇（債券価格は下落）が進みました。

なお、為替については、米長期金利の上昇による日米金利差拡大等により、対ドルで円安が進行しました。

2. ベンチマーク・インデックスの推移 (R3.3末=100)



(参考)市場インデックス

区 分	令和3年3月末	令和3年6月末	令和3年7月末	令和3年8月末	令和3年9月末
国内債券(新発10年国債利回り)	0.090 %	0.055 %	0.015 %	0.020 %	0.065 %
(NOMURA-BPI総合)	385.724 ポイント	386.903 ポイント	388.809 ポイント	388.461 ポイント	387.116 ポイント
国内株式(日経225)	29,178.80 円	28,791.53 円	27,283.59 円	28,089.54 円	29,452.66 円
(TOPIX配当込)	3,080.87 ポイント	3,070.81 ポイント	3,003.91 ポイント	3,099.08 ポイント	3,234.08 ポイント
外国債券(米国10年国債利回り)	1.742 %	1.469 %	1.224 %	1.310 %	1.488 %
(独10年国債利回り)	-0.292 %	-0.207 %	-0.461 %	-0.383 %	-0.199 %
(FTSE世界国債インデックス)	413.626 ポイント	416.696 ポイント	423.410 ポイント	421.823 ポイント	415.950 ポイント
外国株式(NYダウ)	32,981.55 ドル	34,502.51 ドル	34,935.47 ドル	35,360.73 ドル	33,843.92 ドル
(独DAX指数)	15,008.34 ポイント	15,531.04 ポイント	15,544.39 ポイント	15,835.09 ポイント	15,260.69 ポイント
(MSCI-KOKUSAI)	4,484.841 ポイント	4,889.768 ポイント	4,933.781 ポイント	5,061.242 ポイント	4,903.718 ポイント
為替レート(対ドル)	110.50 円	110.99 円	109.75 円	109.86 円	111.58 円
(対ユーロ)	129.87 円	131.62 円	130.14 円	129.68 円	129.31 円

3. 令和3年度第2四半期まで(令和3年4月～令和3年9月)のポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

令和3年度第2四半期まで(令和3年4月～令和3年9月)の被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、令和3年9月末時価総額は2,621億78百万円となり、第2四半期までの総合収益は59億72百万円となりました。また、修正総合利回りは2.29%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	令和2年度末 時価総額	令和3年9月末 時価総額	時価総額構成割合	第2四半期まで の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	170,435	184,223	70.3	649	0.38
自家運用	71,535	72,132	27.5	156	0.22
外部運用	98,899	112,091	42.8	493	0.49
国内株式	36,265	33,194	12.7	1,489	4.25
外国債券	12,864	12,820	4.9	75	0.59
外国株式	39,995	31,145	11.9	3,759	9.94
短期資産	-2,554	797	0.3	-0	—
合 計	257,006	262,178	100.0	5,972	2.29

- (注) 1. 政策アセットミックスは、国内債券71% (±10%)、国内株式12% (±4%)、外国債券5% (±2%)、外国株式12% (±4%) としています (カッコ内は乖離許容幅)。
 2. 国内債券のうち自家運用 (満期保有目的) については、償却原価法 (定額法) を適用しています。
 3. 国内債券のうち外部運用については、金利上昇リスクに対応するために保有する短期資産 (令和2年度末時価総額47,494百万円、令和3年9月末時価総額54,045百万円) を含みます。
 4. 令和2年度末時価総額は、令和2年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の▲2,554百万円は、決算整理前の額791百万円から被保険者危険準備金ポートフォリオへの繰入額3,345百万円を減算した額です。
 5. 令和3年9月末時価総額 (合計) は、令和2年度末時価総額 (合計) 257,006百万円に、第2四半期までの受給権者ポートフォリオへの繰入額等800百万円を減算及び総合収益の5,972百万円を加算した額262,178百万円となりました。
 6. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。(以下同じ。)

(参考) 令和3年度第2四半期(令和3年7月～9月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資 産	令和3年6月末 時価総額	令和3年9月末 時価総額	時価総額構成割合	第2四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	167,153	184,223	70.3	75	0.04
自家運用	72,064	72,132	27.5	78	0.11
外部運用	95,088	112,091	42.8	-3	-0.00
国内株式	35,764	33,194	12.7	1,630	4.89
外国債券	12,959	12,820	4.9	-19	-0.15
外国株式	43,581	31,145	11.9	175	0.45
短期資産	1,141	797	0.3	-0	—
合 計	260,597	262,178	100.0	1,861	0.70

- (注) 令和3年9月末時価総額 (合計) は、令和3年6月末時価総額 (合計) 260,597百万円に、第2四半期の受給権者ポートフォリオへの繰入額等280百万円を減算及び総合収益の1,861百万円を加算した額262,178百万円となりました。

② 受給権者ポートフォリオ

令和3年度第2四半期まで(令和3年4月～令和3年9月)の受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

なお、債務の評価額である受給権者経理における給付原準備金の額は、毎年度末の額について、年金数理人の有資格者である年金計理人が、関係規定に基づき適正に算定されていることを確認しており、令和2年度末においては 96,329百万円となっています。

(単位:百万円)

資 産	令和2年度末 時価総額	令和3年9月末 時価総額
国内債券	81,877	83,048
短期資産	15,756	19,266
合 計	97,634	102,314

(注) 1. 令和2年度末時価総額は、令和2年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の15,756百万円は、決算整理前の額15,765百万円から受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入額8百万円を減算した額です。

2. 令和3年9月末時価総額の短期資産のうち16,028百万円は、マイナス利回りの国内債券購入を回避するため、追投待機資産として現預金等により取り置いているものです。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

令和3年度第2四半期まで(令和3年4月～令和3年9月)の危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	令和2年度末 時価総額	令和3年9月末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	9,345	9,346
	調整準備金	短期資産	3,773	3,682
	合 計		13,118	13,028
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	2,971	3,165

(注) 令和2年度末時価総額は、令和2年度決算整理後の額となっています。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計13,118百万円は、決算整理前の合計額9,773百万円に被保険者ポートフォリオからの受入額3,345百万円を加算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の2,971百万円は、決算整理前の額2,963百万円に受給権者ポートフォリオからの受入額8百万円を加算した額です。

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある(同義語 ファンド)。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村証券金融工学研究センターが作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債(A格相当以上)から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が作成している国内株式市場の指標。東証一部全上場銘柄から構成される。国内株式市場の代表的な指標である。

* FTSE世界国債インデックス(除く日本、ヘッジあり、円ベース)

FTSE Fixed Income LLCが作成している外国債券市場の指標。主要各国(除く日本)が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、円換算)

MSCI Inc.が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。